

草花の動物園



カラスノエンドウ

春暖かくなると、つるをのぼして50cmくらいの高さになり、4月ごろに赤紫色の大きな花をつけます。

長い豆のさやができます。じゅくすと黒くなることからカラスという名前がつけました。

スズメノエンドウ



カラスノエンドウに似ていますが、葉や花が小さいことからスズメという名前がつけました。

花は白っぽい紫色です。

花が終わると、実が2個ずつ入った豆のさやができます。



カスマグサ



葉がカラスノエンドウとスズメノエンドウの中間くらいの大きさで、花はスズメノエンドウより少し大きいことから、カラスとスズメの間と名付けられました。かなり少なく、なかなかみつけられません。



カラスウリ

つるをのぼして、近くの木や草の上にはい上がっていきます。夜に花びらがレースのような白い花をつけます。

花が終わると、赤い大きなラグビーボールのような実をつけます。

草花の動物園



キツネノボタン

水田や少ししめった所に生えています。葉や茎(くき)はやわらかく、4～7月ごろに茎の先に黄色の花をつけます。

セリに似ていますが、葉には毒があります。

実にはとげがたくさんあり、コンペイトウのような形をしています。

キツネノマゴ

8～9月ごろに茎(くき)の先に長い穂(ほ)がのび、そのすきまからピンクの花が咲きます。

花の穂がキツネのしっぽに似ていることや、花の形がキツネの顔のようであることから、この名前がついたようです。



キツネアザミ

5～6月、いくつも枝分かれし、茎(くき)の先にピンク色の花をつけます。アザミの花によく似ています。

葉にはトゲがないので、アザミの仲間ではありません。

アザミに化けているということで、キツネアザミとついたのでした。



比較



ノアザミ

5～8月ごろ、ピンク色の花をつけ、道ばたによく見られます。キツネアザミによく似ていますが、葉のまわりにはトゲがあり、手をふれると非常に痛いのです。





エノコログサ(ねこじゃらし)



長い穂(ほ)でネコをつつくと、喜んでじゃれつくことから「ねこじゃらし」と言われています。

穂の形が犬のしっぽに似ていることから「いぬっころぐさ」とも言われ、しだいにエノコログサとなったとのことです。

穂には小さなつぶつぶの実がぎっしりと並んでいます。粟(あわ)の代わりとして食べられます。

アキノエノコログサ(ねこじゃらし)



エノコログサに似ていますが、穂(ほ)はいっそう長く、先はまがって垂れ下がります。エノコログサの穂はまっすぐです。

穂には小さなつぶつぶの実がならんでいます。よく見るとすき間がいっぱいあります。



キンエノコロ(ねこじゃらし)

エノコログサに形は似ていますが、穂は金色にかがやいています。



ネコハギ

地面をはうように横に広がっていきます。

7~8月ごろ、白いマメの花(チョウの形)が葉のわきにつきます。

草花の動物園



イヌタデ

高さは30cmくらいで、道ばたや田のあぜなど少し湿り気のある所に、普通に生えています。夏から秋に赤白入り混じった（赤の方が多い）長い穂（ほ）が出ます。

穂が出るまでのやわらかい葉や新芽（め）は、あえ物や天ぷらなどにして食べられます。

から味が少なく、あまり役にたたないということでイヌとついたようです。



オオイヌタデ

荒地などに生え、高さは1mくらいにもなり、葉や穂（ほ）の長さもイヌタデよりも長いです。

花は6月ごろから咲き始めます。

穂の色は白っぽく、少し赤くなることもあります。



イヌガラシ

30～40cm

くらいの高さで

道ばたによく生えています。

春から夏に茎の先に黄色の小さな花をたくさんつけます。花が咲いたあと、長いさやがつぎつぎにできます。



イヌコウジュ

茎は四角でシソの葉によく似た小さな葉がつきます。

秋になると、白い小さな花がつぎつぎに咲きます。コウジュは香りという意味ですが、この草は香りがあまりないので、一ランク落としてイヌとつけられました。



草花の動物園



オオイヌノフグリ

春早く、3月ごろから明るい青色の花がいっぱい咲きます。地面をおおうように広がり、青いしき物を広げたようになります。

花が咲いたあとにできる実が、犬のフグリ(鞆丸こうがん)に似ていることから、イヌノフグリという名がつけられました。



タチイヌノフグリ

オオイヌノフグリに比べると、花は小さくて目につきにくいです。

また横に広がらず立ち上がっていますが、見つけにくいです。



イヌホオズキ

ホオズキの仲間ですが、赤い実はありません。白い花が咲いたあとに緑色の丸い実が5~6個かたまってつきます。茎が紫色になっていることもあります。



アメリカイヌホオズキ

アメリカからやってきました。勢力をのぼし、今はこの種類の方が多いです。花の色は紫色ですが、白色もあります。でも実が2~3個しかかたまっていないので区別できます。

草花の動物園

私たちが毎日食べているお米や麦、ヒエがどのような植物から採(と)れたか知っていますか？水田の中でさいばいされているイネは知っていますね。

これらの大切な植物に姿や形がそっくりであっても、食べられないなど役にたたない時にイヌなど動物の名前が頭によくつけられます。



イヌビエ

健康によいと五穀米(ごこくまい=主食のこと)に使われているヒエは、水の中でさいばいされますが、そのヒエに姿がそっくりなのがイヌビエです。

水の中や水辺で育ち、つぶつぶの実がいっぱいできますが、食べられません。



ケイヌビエ

イヌビエにそっくりですが、穂(ほ)に長い毛があります。



イヌムギ

野原や道ばたによく生えています。平べったい実がいっぱいつきます。残念ながら食べられません。



ネズミムギ

1本のじくのまわりに、たがいちがい平べったい実がたくさんつきます。6月~8月ごろ、野原や道ばたに普通に見られます。



カラスムギ

ちょっと変わった形をしていますね。よく育つと1mくらいまでなります。穂の先が2つにわれています。この仲間のエンバクはオートミールなどに利用されますが、カラスムギは食べられても、おいしくないでしょう。

草花の動物園



ウシハコベ

ハコベには3種類ありますが、その中で葉がもっとも大きいことからウシという名がつけられたようです。春早くから、横に広がって白い小さな花をつけます。ハコベの仲間ですので、もちろん葉や茎(くき)は食べられます。



コマツナギ

夏、茎(くき)の先にきれいなピンクの花がつぎつぎに咲きあがっていきます。草のように見えますが、木の仲間です。地面にがっちりとかっついていきますので、馬(駒こま)をつないでも大丈夫だろうということで、駒つなぎとなったようです。



オニウシノケグサ

イネの仲間で、穂(ほ)にはがんじょうな実がいっぱいつきます。家ちくのえさとしてヨーロッパから入ってきた植物ですが、今は空き地や道ばたで勢力を伸ばしています。花粉がアレルギーを起こします。

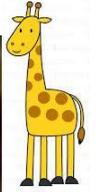


ウマゴヤシ

チョウのような形をした黄色の花をつけます。馬を肥やす(太らせる)と言われてるように、馬や牛などの家ちくのよいえさになります。

ハトムギ (ジュズダマ)

白、緑、茶など、いろいろな色のついた実ができます。この実に糸を通して、うで輪や首かざりにして遊びます。食べられますが、野草茶などに使います。



アキノキリンソウ

秋になると茎の先に黄色の花をつけます。ひょろっと伸びあがって黄色い花をつけることから、キリンという名がついたのかもしれませんが。

草花の動物園

スズメはカラスやハトに比べると小さな鳥ですので、まわりの草花に比べて小さいと思われる時に、スズメという言葉をつけます



スズメノテッポウ

花の穂(ほ)が鉄ぼうのように細長くなっています。春早くから、田んぼの中にいっぱい生えています。



スズメノヤリ

針金のように細い茎(くき)の先に、先がとがった黒っぽい花の穂(ほ)をつけます。春に道ばたで見られます。



スズメノカタビラ

地面にはりついて細長い葉を広げ、緑色の米つぶのような花をいっぱいつけます。春に空き地や道ばたでよく見られます。



スズメウリ

キュウリの葉のような形をした小さい葉をつけ、つるをのぼしてまわりの木やかき根にはい上がっていきます。

小さい白い花が咲いたあと、1cmほどのうす緑色の丸い実がぶら下がります。



シマスズメノヒエ

長い茎の先の方に3~4本の穂が突き出て、風にゆらゆらとゆれています。夏に道ばたでよく目につきます。



カモガヤ

長くのびた茎の先に、うす緑色の穂がだんごのように固まってつきます。春の終わりごろ道ばたで見つかります。牛や羊など家畜のよいえさになります。



草花の動物園



へびイチゴ

春に地面いっぱい広がって、黄色い花をつけます。花が終わるとイチゴそっくりな赤い実ができます。

食べても毒にはなりませんが、おいしくありません。



ホタルブクロ

ちょうちんのような花がぶら下がります。赤紫色と白色があります。

子供がつかまえたホタルをこの中に入れて、遊んだり持ち帰ったりしたという話があります。



オヘビイチゴ

へびイチゴによく似ていますが、葉は5枚一組になっています。

どちらも田のあぜや野原によく生えています。



ノミノフスマ

葉や花はハコベに似ていますが、全体にもっと小さくて見つけにくいので、ノミとついたのでしょう。



ムラサキサギゴケ

春に田のあぜなど、少ししめった所の地面いっぱい広がります。花の形が鳥のサギに似ていると言われます。



アキノウナギツカミ

タデの仲間です。

しめった所に生え、

秋に赤白

まじった

小さな花

をつけます。

茎には小さなトゲがいっぱいあり、まわりの草花にからみつきます。



草花の動物園



動物園には、いろんな動物がいて訪れる人が多いです。ならやまは「草花の動物園」といえるほど、たくさんの植物が育ち、おおぜいの人が見学や観察にきていますよ。



ハハコグサ

野原や道ばたに生え、春に黄色のふさのようになった花のかたまりをつけます。葉や茎はやわらかい見えないほどの毛でおおわれています。春の七草のひとつです。



チチコグサ

ハハコグサに対こうして名付けられたようです。細い葉を地表面に広げ、5～6月ごろ花の茎を立ち上げます。花はかっ色で小さく、頂点に固まっています。



チチコグサモドキ

葉や花がチチコグサに似ていることから、モドキの名がついたようです。葉や茎は白っぽく、細かい毛でおおわれています。



ママコノシリヌグイ

三角形の葉を持ち、茎にいっぱい並んだ逆向きのとがったトゲを、まわりの草にひっかけて立ち上がります。夏から秋にピンク色の小さな花のかたまりをつけます。



ヒメオドリコソウ

春の野原を赤くいろどるのは、この花とホトケノザの合作です。高さ20cmくらいで低く、葉は五重塔のように積み重なり、下の方の葉は緑色ですが上の方の葉は赤紫色をしています。積み重なった葉の間からつぎつぎにピンク色の花を咲かせます。



草花の動物園



ヒヨドリバナ

たけの長い草花で1mくらいになり、林の中に生えています。8月~10月ごろに、白い花がふさのようにかたまって咲きます。ヒヨドリのなくころに咲くと言われていました。



ヒヨドリジョウゴ

山ぎわに生えているつる草です。8月~10月ごろに白い花をつけますが、花びらは裏側に反(そ)り返っています。じゅくした丸い赤い実はヒヨドリが好むと言われてはいますが、それほどでもないようです。



イヌコモチナデシコ

ヨーロッパから入ってきた植物で、道ばたに生えています。春に茎を長くのばして立ち上がり、小さなうすいピンク色の花をつけます。



サルトリイバラ

葉は丸くてあつみがあり、茎には大きなトゲがあってまわりの植物にからまって立ち上がります。トゲはするどく、うっかりこの草むらに入りこむときずだらけになります。すばやいサルもにげられないでしょう。



ネズミノオ

日当たりのよい野原や道ばたに生えている細長い葉っぱの草です。

秋に真ん中から細長い灰色の花の茎(ネズミの尾のようですね)をのばします。



オカトラノオ



花の穂をトラの尾に見立てたもの。日当たりのよい草地などに生えます。6~7月ごろ10~30cmの茎をのぼし、白い小さな花をたくさんつけます。下から咲き上がり上の方は垂れます。